事業名：地域や関連機関と連携した防犯教育公開事業（学校安全総合支援事業）
モデル地域：八千代市勝田台地区　　拠点校：八千代市立勝田台小学校

所轄教育委員会：八千代市教育委員会　電話番号：０４７－４８１－０３０３

## １　モデル地域の現状

○モデル地域名：八千代市勝田台地区
○学校数：小学校２校　中学校１校
（２）モデル地域の安全上の課題
高齢化が進み、見守りやパトロールへの協力者が年々減少傾向にある。また、住宅地の死角となりやすい場所や、小さな公園等が散在しおり、地域の方から不審者等の情報も寄せられている。

## ２　モデル地域の事業目標

○児童生徒がフィールドワーク等を通して地域の防犯上の課題を理解するとともに、危険予測能力や回避能力を身に付け、自分の身を守るために適切な判断や行動ができるようにする。
○学校・家庭・地域・関係機関がそれぞれの役割を明確にし、地域の特性に応じた学校安全体制を構築する。

## ３　取組の概要

### (1)実施概要

| 実施時期 | 計　画　事　項 | 参加者 |
|---|---|---|
| ６月 | ○第１回実践委員会 | 実践委員 |
| ７月 | ○職員全体研修 | 学校職員 |
| ９月 | ○第２回実践委員会 | 実践委員 |
| 10 月 | ○ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ<br>○空白マップ作成 | 学校<br>保護者 |
| 12 月 | ○授業発表会 | 学校<br>県市関係課担当 |
| １月 | ○第３回実践委員会 | 実践委員 |

## ４　具体的な取組

### (1) 安全教育の充実に関する取り組み

#### ア　安全教育の充実に関する取組

①　実践委員会における情報共有
６月、９月、１月に実践委員会を開催。実践委員会の中で情報交換の時間を設け、防犯教育に係る地域の状況や学校の取組についての情報共有を図った。

＜実践委員＞
○日本こどもの安全教育総合研究所理事長
○千葉県教育庁葛南教育事務所指導室主席指導主事
○八千代市教育委員会担当
○勝田台小学校学校評議員（八千代市自治会連合会長・勝田台地区主任児童委員）
○勝田台小学校ＰＴＡ会長
○勝田台小学校ＰＴＡ副会長
○勝田台小学校スクールガードリーダー（八千代市青少年センター補導委員連絡協議会会長）
○勝田台中学校生徒指導主任・安全主任
○勝田台南小学校教務主任

○勝田台小学校長
○勝田台小学校教頭
○勝田台小学校教務主任
○勝田台小学校安全主任

②　授業発表会の開催

モデル地域内の拠点校を会場に、授業発表会を実施。

日　時：令和３年 12 月１日
テーマ：住み続けられるまち勝田台
内　容：学級別に、下校コース別グループで、地域の状況と課題、解決に向けた提案を発表した。
参加者：実践委員、スクールガード、県市関係課担当
参加人数：約 15 名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止として、一般公開をとりやめ、ホームページ上での実践発表を行う。

日　時：令和４年１月 21 日～

③　公開までの指導計画（授業目標）

勝田台小学校４年生を対象に総合的な学習の時間内で行った。（８時間）

１時限：勝田台のまちの良いところを知る。
危険な場所等の条件を考える。
人の目があることで犯罪を減らすことができることを知る。

２時限：フィールドワークの準備
３時限：空白マップ作成①
４時限：空白マップ作成②

元々作成している地域安全マップとは別に、「空白マップ」と呼ばれる、地域の「見守る目」がない場所を塗り分ける。

５時限：空白マップから地域の方に協力をお願いしたいことを考える。

調査結果をもとに、住み続けられる勝田台としての取組を考える。

⇒考えた取組について地域の方から意見をもらい、地域の意見や願いを知る。（新型コロナウイルス感染症対策として、手紙でのやり取りで実施）

６時限：授業発表会準備①
７時限：授業発表会準備②
８時限：授業発表会

ＴＥＡＭＳを通して、全校へ発表

※児童のアイデア例

『ぬくもりベンチ』

「木を陰にして、お菓子や、お茶を飲みながら見守り、雨の日は屋根などをつけます。」

⇒見守ってくださる方々に対する気持ちを考え、時間的な拘束や労力などの負担を気遣ったアイデアが多くの児童から、数多く出された。

④　講演会・防犯教室の開催

安全教室と結び付けた実践的な講演会･防犯教室を計画していたが、緊急事態宣言下だったため中止となった。

**イ　安全教育の取組を評価する・検証するための方法について**

八千代市の成果指標

（ア）　危機管理マニュアルの見直しや内容の周知、学校安全を推進する中核教員校公務分掌への配置に関しては事業実施後、今まで以上に、市内全校で充実した内容になるよう見直しを図った。

（イ）　学校安全に関する校内会議や研修等の実施については、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、学校安全に関する研修を全ての学校で取り組むことができた。

**(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組**

保護者やスクールガードによる朝の見守り交通安全指導、地域住民によるパトロール、集団下校時の教職員引率や日頃からの安全指導等、関係機関が連携しながら、やれることからやるというスタンスで子どもたちを見守っている。

**(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について**

市・県教育委員会から出される文書や通知文、資料をもとに自己研修を推奨した。

**５　取組の成果と課題**

**【成果】**

・安全なまちづくりには地域の人の協力が必要であり、だからこそ人と人のつながりを大切にするために、日頃の挨拶や思いやりのある会話が重要であることに気づくことができた。「住み続けられるまち」であるためには、助け合いや互いの思いやりが必要であることに気づき、ＳＤＧｓの目標 11 について考えを深めることができた。

・危険に対する概念について見方を変えてみることで、自分たちの安全対策に解決方法を見出せるようになることを知ることができた。
・“見守りの目”についてマップに示すことで生活安全の意識が高まり、子どもたちから「見守りの目がない場所を減らしたい」という主体的な活動につなげることができた。
・地域住民の意見を知り、やりとりすることで、安全や防犯に対する意識を互いに高め、「住み続けられるまち勝田台」の将来に理想を描き、そこを目指して主体的に取り組む姿勢が育った。
・さまざまな人の立場に立ってものを見たり考えたりすることで、学校だけではできないことも、連携して取り組むことでできるようになるかもしれないという可能性を実感することができた。
・たくさんのアイデアを共有し、課題解決に近づく実感の中で、より楽しんで活動に取り組もうとする積極性が生まれた。

また、児童たちには、この学習を通じ以下のような成長があった。
・勝田台のまちを、住み続けられるまちにしていくために何ができるかを考えた。登下校の安全には、『見守りの目』が重要であることに気づき、見守りの目を増やすために、出し合ったアイデアを実現するためには、人との温かなつながりが重要であると結論づけた。そして、人とのつながりを大切にするために自分たちがまずできることを考え、「気持ちのよいあいさつをしよう」という意見も出された。

具体的な行動として、朝の通学路に立つスクールガードの方々に挨拶をしたり、会話したりするようになった。夕方、パトロールをしてくださる方々に「ありがとうございます」と言えるようになった児童もいる。スクールガードや地域の方々への感謝の気持ちが自然にあらわれるようになった。

**【課題】**
・コロナ禍で、コミュニケーションをとりながら活動をすることに大きな制限があった。集まることもできず、地域との連携方法について、工夫が必要であった。
・フィールドワークについても、保護者との連携をとりながら、全体で行うことが難しく、人とのふれあいの中で生まれる温かさや思いやりに触れる機会が減ってしまった。